

## 第5学年 社会科学習指導案

カトリック女子研究所小学校部会 小林聖心女子学院小学校来校研究授業

2019年11月22日(金)  
5限(13:15~14:05)  
5年 42名  
指導者 岸尾 祐二

### 1. 研究テーマ

「活用する力を育てる～主体的・対話的で深い学びを育てる指導の工夫を通して～」

情報化社会において情報を選択し思考・判断・表現を通して現実の出来事に関心をもち探究する姿勢を育成するとともに、情報化の進展だけではなく負の部分も考えるためには、**人・メディア・実物**をどのように活用する指導をしたらいいのだろうか。

### 2. セカンドステージ5・6年社会科の「活用する力」と育てたい子どもの姿

5・6年生の社会科では「基礎と活用を一体化して身につける指導」を一貫して実践している。社会的な既習事項や生活の中での体験を活用し、社会的な課題に向けて多様な方法から選択した方法を活用し課題を解決しようとする力を育てるのである。

一般的な意味として、活用は「**物や人の機能・能力**を十分に生かして用いること」(デジタル大辞泉の解説より)とされている。本実践ではこの活用の意味を基にして学習を組み立てる。このことが主体的・対話的で深い学びを育てる指導の工夫に繋がるものと考え。

#### 育てたい子どもの姿

- 社会的な事象に対して、積極的に関心を示し、意欲的に取り組む子ども〈意欲〉
- 社会的な知識を基に、多様な方法で追究し課題を解決する子ども〈自力解決〉
- 社会的な課題に対して、多様な方法から解決する方法を選択する子ども〈解決の検討〉



◎社会的な解決に向けて、身につけた知識や思考、方法を活用しようとする子ども〈活用への態度〉

### 3. 単元名「わたしたちの生活と情報」

### 4. 単元目標

情報産業や情報化した社会の様子に関心をもち意欲的に調べ、情報産業や情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効活用が大切であることを理解し、実際に**人・メディア・実物**を活用することを通して、情報化のよりよい進展とともに負の部分についても考えようとする。

### 5. 研究テーマと単元とのかかわり

研究テーマの「情報化社会において情報を選択し思考・判断・表現を通して現実の出来事に関心をもち探究する姿勢を育成するとともに、情報化の進展だけではなく負の部分も考えるためには、**人・メディア・実物**をどのように活用する力を育てる指導をしたらいいのだろうか」は単元目標の「**人・メディア・実物**を活用する」ことの中核的な位置を占めると考える。

初等科では従来本単元で「情報活用が大切であることを理解」するだけでなく、実際にメディアを活用することを実践してきた。具体的には「新聞の読み方」を学んできたのである。新聞紙面とデジタル新聞を活用してきた。新聞を一人一部同日の朝刊を手にし、デジタル新聞はコンピューター部屋のパソコンを通して現実の出来事を読み解いていくのである。この長年の実践は、日本私立小学校連合会での発表や公開授業、日本NIE学会での発表や公開授業をして、研究成果を報告書に執筆したり、いくつ

かの著作物として出版したりしてきた。NIEはNewspaper in Educationの略である。また、新聞及び他メディアも批判的に考察するメディアリテラシーの視点も導入してきた。その成果は、メルプロジェクト(東京大学大学院情報学環教授水越伸プロジェクトリーダー)で発表、検討してきた。

しかし、2014年以降は情報化のさらなる進展に鑑み、新聞やテレビなどのメディアからタブレットPCのメディアの活用を中心に学習を展開する研究に取り組むことを研究対象とすることにした。授業者は1998年4月から2018年7月までアサヒ・コム(当時、現朝日新聞デジタル)でNIEをネットでどのように展開できるかを発信してきた。また、2000年1月から2014年1月までホームページ「インターネットNIE」を自身で開設してきた。その経験も踏まえ「情報」単元においてICTを中心的な概念として設定していく意向をより鮮明にしたのである。

ICT(Information and Communication Technology)はコンピュータ技術の活用に着目する。従来コンピュータールームで限られた時間内で情報を処理することから、一人一台もち教室で必要なときに情報を得て学習を展開することに大きな可能性を感じるのである。一方、手放しで喜んでいるのではなくパソコンやタブレットPC、スマートフォンとそれに関連したソフトやアプリを使用してのネットワーク社会には大きな課題もある。情報化社会のまさに影の部分をもどのように考え克服することがリテラシーの不可欠な部分である。この視点が指導の最も大切なことと捉えている。新たなメディアリテラシー研究へのチャレンジである。

今回の研究授業では、輪島塗をタブレットPCと実物で対決させる構図である。授業者はかつて輪島塗とタブレットPCをテーマに研究授業を行った。輪島塗などの伝統工芸は2000年ごろまで5年社会科教科書の「工業」単元で取り上げられていた。ネットの活用に関しては2011年ごろから5年社会科教科書「情報」単元で取り上げられるようになったと思われる(授業者の20年間の教科書執筆経験から)。1990年2月14日に「輪島塗の実物に触れる」というテーマで、2014年12月2日に「ネット社会の光と影を考える」というテーマで、それぞれ5年生で校内の研究授業を行った。今回はこの2つの研究授業を融合する形で実践することにする。

### 6. 活用力を育てる手だて

#### (1) 「授業展開の中」での活用力を育てる手だて

〈導入〉

導入の工夫[タブレットPCで調べてきたことの振り返り]

教材・教具の工夫[タブレットVS.実物のイラストを提示、輪島塗工程一覧の旧国鉄広告の提示]

〈展開〉

興味・関心を喚起する工夫[輪島塗の実物で何を見たいか]

教材・教具の工夫[輪島塗工程見本椀、その他輪島塗に関する実物体験]

〈まとめ〉

表現のさせ方の工夫[輪島塗体験を「今日のなるほど」で表現する]

発展学習へとつなげる工夫[次回の学習計画]

#### (2) 単元計画の中での活用力を育てる手だて

教材開発の工夫

教材・教具の工夫

表現のさせ方の工夫

学ぶ場の工夫

発表の場の工夫

生活の中で実践できる場の工夫

#### (3) 授業外・単元外の活用力を育てる手だて

日常の中での学ぶ場の設定

## 7. 児童の実態 (略)

## 8. プロファイルとの関連

### 魂を育てる

⑨自分の経験を振り返り、考え、表現することができます。

### 知性を磨く

⑥自分で考える力と判断力が育ち始めています。

⑧種々の情報を批判眼をもって判断することができます。

⑩国際社会、環境、政治など、さまざまなことがらに問題意識を持つことができます。

⑫文章や口頭での表現力が育っています。

### 実行力を育てる

9 自ら考え行動する力が育っています。

## 9. 単元計画「わたしたちの生活と情報」(18時間)

(年間の5年社会科の指導計画については添付資料参照)

### 生活に情報はどのように役立ち、情報をどのように活用したらいいのか?

#### 1 身のまわりの情報(1)

1時間目「身のまわりの情報を探そう」

#### 2 情報産業とわたしたちの暮らし(5)

1時間目「新聞にはどんな情報があるの」

2時間目「新聞はどのように読み解いたらいいのか」

3時間目「テレビはどのように読み解いたらいいのか」

4時間目「広告・コマーシャルはどのように読み解いたらいいのか」

5時間目「タブレットPCで新聞を読む」

#### 3 タブレットPC VS. 実物 日本の伝統工芸を通して(5)

1時間目「タブレットで輪島塗を調べる」

2時間目「輪島塗 タブレットVS. 実物」(本時)

3時間目「タブレットと実物 どう考える」

4時間目「タブレットと実物 広告にする」

5時間目「タブレットと実物 みんなで討論」

#### 4 情報化社会をどう生きる(7)

1時間目「ネット社会はバラ色の世界なの?」

2時間目「ネット社会の光と影を調べる①」

3時間目「ネット社会の光と影を調べる②」

4時間目「ネット社会の光と影を調べる③」

5時間目「ネット社会の光と影を考える」

6時間目「情報化時代の個人情報と報道被害」

7時間目「個人情報をどう守る」

### 単元計画「わたしたちの生活と情報」で児童が活用する資料

- ・教科書「情報を生かすわたしたち」『新しい社会 5下』東京書籍、2014年検定済。所収。
- ・教科書「受け取る側の判断」『小学生の社会 5下』日本文教出版、2010年検定済。所収。
- ・資料集「わたしたちの暮らしと情報」『社会科資料集 2019 5年』文溪堂、2019年発行。所収。
- ・共同通信社『SNSの落とし穴』共同通信社、2014年。
- ・新聞記事
- ・新聞広告
- ・タブレットPCでの収集情報

## 10. 参考文献

- ①共同通信社『SNSの落とし穴』共同通信社、2014年。
- ②守谷 英一『ネット護身術』朝日新書、2014年。
- ③香山 リカ『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』朝日新書、2014年。
- ④志村 忠夫『スマホ中毒症』講談社α新書、2013年。
- ⑤樋口 進『ネット依存症』PHP新書、2013年。
- ⑥尾木 直樹『いじめ問題をどう克服するか』岩波新書、2013年。
- ⑦守谷 英一『フェイスブックが危ない』文春新書、2012年。
- ⑧岡嶋 裕史『ハッカーの手口 ソーシャルからサイバー攻撃まで』PHP新書、2012年。
- ⑨荻上 チキ『ネットいじめ ウェブ社会と終わりなき「キャラ戦争」』PHP新書、2008年。
- ⑩荻上 チキ『ウェブ炎上—ネット群集の暴走と可能性』ちくま新書、2007年。
- ⑪田中 辰雄、浜屋 敏『ネットは社会を分断しない』角川新書、2019年。
- ⑫佐々木 健一『「面白い」のつくりかた』新潮社新書、2019年。
- ⑬齋藤 孝『大人の読解力を鍛える』幻冬舎新書、2019年。
- ⑭古宮 昇『傾聴術—ひとりで磨ける“聴く技術”』誠信書房、2008年。
- ⑮市川 伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』図書文化、2008年。
- ⑯岸尾 祐二『新聞のほん』リブリオ出版、1991年。
- ⑰岸尾 祐二『スポーツ記者を追いかけろ』リブリオ出版、1993年。
- ⑱山下 柚実、岸尾 祐二『子どもを育てる五感スクール』東洋館出版、2006年。
- ⑲清水 克彦、岸尾 祐二『メディアリテラシーは子どもを伸ばす』東洋館出版、2008年。
- ⑳岸尾 祐二、李貞均『新聞を活用した読解力向上ワーク』東洋館出版、2008年。

## 11. 授業評価

### 評価内容

- ① 活用力を育てる手立てが十分実践できていたか。  
育てたい子どもの姿が実際に育っているのか。  
○社会的な事象に対して、積極的に関心を示し、意欲的に取り組む子ども〈意欲〉  
○社会的な知識を基に、多様な方法で追究し課題を解決する子ども〈自力解決〉  
○社会的な課題に対して、多様な方法から解決するする方法を選択する子ども〈解決の検討〉  
○社会的な解決に向けて、身につけた知識や思考、方法を活用しようとする子ども〈活用への態度〉
- ②実物が有効に活用されていたか。
- ③授業者と児童との対話、グループや全体での話し合いが機能していたか。

### 児童への質問による評価

授業後児童へ自由に質問する時間をつくります。児童は今回の授業をどう捉えたかなど自由にお聞き下さい。

## 12 最後の研究授業への思い

初等科での研究授業はこれが最後である。振り返ってみれば、今まで校内での12回の研究授業。外部の方への公開授業が33回（取材授業も含む）。

授業者が聖心の教師に採用されたのが1981年。教皇ヨハネ・パウロ2世が2月に来日された。この年3年社会科で初めての研究授業を行った。そして、定年を迎える今年度、2019年11月23日に教皇フランシスコが来日される。その前日に今回の研究授業を実施する。聖心の教師に赴任したときから定年まで授業を続けられる教師になろうと決意したことを実行できたことが大変嬉しい。

私が尊敬する教師は有田和正氏（故人 前筑波大学附属小学校教諭）と向山洋一氏（前教育技術法則化運動代表、大田区立小学校教諭）である。お二人とも一貫して授業を大切に実践された方である。特に向山洋一氏には、1990年2月14日、授業者が初めて東京私立初等学校協会の公開授業をした時に、講師として指導していただいた。講堂に多くの方が参加されていて白熱した討論になった。有田氏にも授業の講師をお願いしていたが実現はできなかった。

数年前より生まれた時から65歳までの自分史を作成している。その自分史を作成しながら気がついたことがある。私の人生は**人・メディア・体験との出会い**で構成されていることである。人（家族・友人・神父様・シスター・同窓生・同僚・教え子・研究仲間など）との出会い、**メディア**（新聞・本・テレビ・映画・パソコン・スマホなど）との出会い、**体験**（旅・フィールドワーク・ミサ・スポーツクラブ・執筆・講演など）との出会いである。

今回の研究授業のキーワードは活用である。活用は「**物や人の機能・能力**を十分に生かす」（前記）ことである。物はメディア（今回はタブレットPC.）と体験（今回は輪島塗などの実物体験）、それに人（今回は教師と児童の対話、児童どうしの討論）が加わる。これは、自分の人生の大切なキーワードを1時間の授業に凝縮する試みである。



上高地で出会った野生の猿

授業者は社会科の教師になって本当によかったと思っている。旅やフィールドワークは自分の人生を豊かにさせてくれる。その豊かさを間接的ではあるが、児童に伝えたいという思いで実物や撮影した写真をできるだけ教室に持ち込んで実践してきた。数カ国の世界地図、数カ国の授業の写真、数カ国の家庭の写真、数カ国のマーケットの写真、ベルリンの壁、中国の小学生が書いた書道、北京の小学校の時間割、北京のマクドナルドのメニュー、小千谷市や十日町市の雪害除去グッズ、林業従事者のハチよけネット、都内の銭湯に張ってあった外国人入浴マナーポスター、築地まぐろ卸商店に張ってあったマグロ漁場世界地図、横浜のバナナ卸商店に張ってあったバナナカラーチャートなど。

今回の研究授業の輪島塗に関するいくつかの実物も、1989年8月の夏休みに初等科教員4名で2泊3日の輪島滞在で収集してきた物である。旅費、滞在費、輪島塗工程見本椀代金などは学校が負担してくださった。授業者が個人的に収集した物もある。1991年2月には十日町にも初等科教員でフィールドワークをさせていただいた。



輪島塗の実物工程



輪島塗関係の実物

社会科教育の特徴は何か。それは、大人が解決できない課題を考え行動することなのである。そこに難しさや醍醐味がある。できるだけ子どもと同じ目線で世の中を見ていく姿勢を貫いていきたい。

授業者はどちらかというとアナログ派だと思っている。ネットで操作する世界に浸るより、いろいろな人との出会い、未知な土地への体験、古典的な映画の鑑賞、スポーツクラブでのヒップホップやズンバのレッスンなどバーチャルではなく実体験に人生の面白さを感じている。電車の中で黙々とスマホを操作していたり、歩きながらスマホを操作していたりする大人を見ると、体験することにどれだけの関心があるのだろうかと思ってしまう。将来はさらにこのような状況が増大することだろう。3人の我が子を見ても、スマホに没頭している時間がだんだん長くなっていくようである。家族でのコミュニケーションと体験は意図的につくるようにしているが、それもいつまで続くのか。という授業者もスマホの恩恵は十分に受けているのである。Twitter、Facebook、LINE、Google、Word、Office Lens、PowerPoint などなど。だからこそ、人・メディア・体験を融合した教育の必要性を感じる。定年後はこんな教育を仕事のその1つとしてしたいという夢がある。

1981年4月に教師になり初めて担任していた3年生が1学期に初めての「先生の通信簿」を書いてくれた。その中に「これからもずっとこの学校にいてください」とあった。子どもの声に励まされ、39年間聖心女子学院初等科の教師をできたことは人生の喜びの一つである。学院の伝統と自然、大勢の神父様、シスターと出会えたことも人生の宝物である。ひとりひとりお会いできた神父様、シスターの顔を思い浮かべ残りの教員生活を過ごしている。

## 座席表

